



ニュースレター



2008年 Summer Vol.17 (2008年8月発行) より



新会長としてのご挨拶、会の今後の運営・抱負

昭和大学歯学部嶺蝕・歯内治療学講座教授 久光 久



第19回日本歯科審美学会総会・学術大会のご案内

日本歯科大学新潟生命歯学部・歯科保存学第2講座教授 加藤喜郎



アジア歯科審美学会2008年学術大会報告

愛知学院大学歯学部保存修復学講座 富士谷盛興



優秀発表賞受賞者のご紹介

大阪歯科大学有歯補綴校合学講座 楠本哲次
朝日大学口腔機能修復学講座
歯科学補綴学分野歯冠修復学分野 岡 正信



ホワイトニングコーディネーター講習会のご案内

ホワイトニングコーディネーター委員会委員長 佐藤 孝

委員会報告

財務担当常任理事		奈良陽一郎
学術委員会	委員長	末瀬一彦
編集委員会	委員長	寺田善博
セミナー委員会	委員長	桑原 栄
国際渉外委員会	委員長	中村隆志
会則検討委員会	委員長	福島正義
国内渉外委員会	委員長	福島正義
学会活性化委員会報告	委員長	松村英雄
倫理委員会	委員長	桃井保子
ホワイトニングコーディネーター委員会	委員	星野睦代
歯科技工士部門	歯科技工士部門常任理事	中込敏夫
歯科衛生士部門	歯科衛生士部門常任理事	永瀬佳奈
認定医審議会・認定士審議会	認定医審議会・認定士審議会委員長	宮内修平
MTM研修推進委員会	委員長	三浦廣行
デンタルカラーコーディネーター委員会	委員長	東光照夫
会員証カード委員会	委員長	齊木好太郎
表彰委員会	委員長	長岡英一
法人化検討委員会	委員長	松村英雄
広報委員会	委員長	黒田康子



大阪大学歯学部附属病院予防歯科口臭外来の紹介

大阪大学歯学部附属病院予防歯科講師 田中宗雄

賛助会員一覧

| [Back](#) |

Copyright © Japan Academy of Esthetic Dentistry, All rights reserved.



2008年 Summer Vol.17 (2008年8月発行) より

巻頭言



新会長としてのご挨拶、会の今後の運営・抱負
昭和大学歯学部齲蝕・歯内治療学講座教授 久光 久

日本歯科審美学会の会長を拝命し、その重責に身の引き締まる思いです。もとより浅学非才の身ではありますが、平成22年に佐藤亨次期会長にバトンタッチするまでの2年間、学会発展のために尽力して参りますので、温かいご支援とご協力をお願いいたします。

このたび、学会活性化、法人化検討、会員カード、MTM研修、デンタルカラー、国内渉外などの新しい委員会を立ち上げ、新役員とともに、執行部が一致団結して会務を執行して参ります。本会は分野の異なる歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、企業の方 などさまざまな領域から同じ志をもって集まった会員から構成されております。お互いの立場を理解・尊重し、親睦を深めながら同じ目的に向かってお互いを高めあい、すべての会員が本会の会員であることに満足できる会にしたいと思っております。

本会は日本歯科医学会認定分科会に加入が認められ、社会的責任も大きくなりました。今後は日本歯科審美学会のブランド力をさらに高め、審美歯科のプロあるいはエキスパートである皆さんが、本学会の会員さらには認定医あるいは認定士であることに大きなプライドを持って頂くとともに、社会から信頼され、これに応えていくようにしたいものです。

今年の夏は甲子園や、北京で連日熱戦が繰り広げられましたが、選手たちの白く美しい歯が際立っておりました。これまで歯を食いしばってがんばり、積み重ねてきた努力と鍛え抜いた精神力の成果を、互いに競い合っていると思うと、芸能人だけでなくアスリートにとっても歯は命ですね。近年の白い歯への願望の高まりは、本学会の飛躍・発展の好機です。特に田上前会長のご発案で発足した、歯科衛生士を対象とするホワイトニングコーディネーター制度は想定外の大きな反響を呼び、通算9回の講習会・認定試験で延べ3,000名を超える参加者数を記録しました。これに伴い歯科衛生士の新入会員が急増しておりますが、同じ仲間として温かく迎え入れたいと思っております。

今後は資格を取得した歯科衛生士のさらなるレベルアップのために、ホワイトニングフェスティバル等の新しい企画も立案されております。今秋は、第19回学術大会担当の日本歯科大学新潟生命歯学部加藤教授、来年は第20回担当の日本大学松村教授に大変お世話になります。現在、大会長、会場とも未定ではありますが平成24年に開催される第23回大会はアジア歯科審美学会との併催となる予定です。

昨年、韓国の歯科審美学会と姉妹提携しましたが、AAADのみならずIFEDなどを通してさらに国際交流を活性化して参ります。

| [Back](#) |



2008年 Summer Vol.17 (2008年8月発行) より

第19回日本歯科審美学会総会・学術大会のご案内



【会 期】	平成20年10月12日(日)・13日(月・祝)
【会 場】	日本歯科大学新潟生命歯学部 アイヴィホール・112番教室
【大会長】	加藤喜郎 (日本歯科大学新潟生命歯学部・歯科保存学第2講座教授)
【メインテーマ】	包括的審美で微笑みを
【大会Web】	http : www.kokuhoken.or.jp/19jaed/

【学会プログラム】

●10月12日(日)

会長講演

『新しい歯科審美の潮流』
久光 久(昭和大学歯学部教授)

大会長講演

『変色歯の審美的改善、漂白・ペニア修復(ビデオ) 予後と対応』
加藤喜郎(日本歯科大学新潟生命歯学部教授)

特別講演Ⅰ

『コンポジットレジンレイヤリングテクニックとMI修復』
田上順次(東京医科歯科大学大学院教授)

特別講演Ⅱ/市民フォーラムⅠ

『天地人を語る～戦国の義将・直江兼続～』
火坂雅志(平成21年度NHK大河ドラマ「天地人」の原作者)

シンポジウムⅠ/市民フォーラムⅡ

『笑い与健康』
座長：松尾 通(東京都開業)
「食事と食育」
柴崎浩一(日本歯科大学新潟生命歯学部教授)
「幼少時抗菌薬の内服と変色歯の発現(仮題)」
福島正義(新潟大学歯学部教授)
「変色歯に対する審美的対応」
加藤喜郎(日本歯科大学新潟生命歯学部教授)
「欠損歯のインプラント治療」
渡邊文彦(日本歯科大学新潟生命歯学部教授)

臨床セミナー「修復治療にもっとコンポジットレジンを活用しよう」

秋本尚武(鶴見大学歯学部 講師)
「レーザーを使ったコンポジットレジン接着修復の要点」
富士谷盛興(愛知学院大学歯学部 准教授)

●10月13日(月・祝)

教育講演Ⅰ

『呼吸および筋機能を活かした矯正治療』
近藤悦子(東京都開業)

海外招待講演Ⅰ

『Tooth Whitening in Esthetic Dentistry』

So-Ran Kwon (韓国)

海外招待講演Ⅱ

『Simplicity & Esthetics』

Jae-Jun Ryu (Korea Univ.)

特別講演Ⅲ

『Esthetic Classification (複雑な補綴のマネージメント)』

山崎長郎 (東京都開業)

シンポジウムⅡ

『変色歯酸化漂白のメカニズム』

座長：大槻昌幸 (東京医科歯科大学 准教授)

「歯質浸透性と漂白効果」

河田英司 (東京歯科大学 教授)

「歯髄・歯肉刺激性と回避対策」

新海航一 (日本歯科大学新潟生命歯学部 准教授)

「漂白歯の色彩学的変化 (臨床評価)」

東光照夫 (昭和大学歯学部 講師)

「漂白歯知覚過敏症に対する臨床的対応」

鈴木司郎 (東京都開業)

シンポジウムⅢ

『変色歯改善を目的とした新素材』

座長：佐藤 孝 (東京都開業)

「歯面コーティング材・ホワイトコートについて」

大森かをる (鶴見大学歯学部 助教)

「ホワイトニングティースメイクアップシステム・ビューティコートについて」

海老原隆 (日本歯科大学新潟病院 准教授)

「ハイライトシェードアップキットについて」

石川明子 (日本歯科大附属病院 准教授)

「レーザーによる変色歯・変色歯肉の審美治療」

永井茂之 (東京都開業)

<ポスター討論>

歯科技工士セッション

特別講演

『包括的歯科審美技工の到達点と将来像』

大島一成 (有限会社デンタル・ラボア・グローブ/東京)

シンポジウム

『欠損補綴の審美性を考える』

「Best of Digital - デジタルが支えるジルコニア審美修復 -」

斉藤 勇 (有限会社ISデンタル/神奈川)

「有床義歯の審美的な歯列再建基準とは」

星 久雄 (星デンタル・ラボラトリー/新潟)

「インプラントの審美性を考える」

木村健二 (有限会社協和デンタルラボラトリー/千葉)

<一般口演 (歯科技工士) >

歯科衛生士セッション

特別講演

『アドバンスのホワイトニング』
宮崎真至（日本大学歯学部 教授）

基調講演

『審美歯科とは何か考えてみよう』
田島菜穂子（ナグモ歯科赤坂クリニック／東京）

シンポジウム

『審美とコミュニケーション』
座長：永瀬佳奈（松尾歯科医院／東京）
「審美歯科におけるコミュニケーション」
小林明子（小林歯科医院／東京）
「見えない審美、息さわやかでコミュニケーション」
品田佳世子（東京医科歯科大学歯学部附属病院・息さわやか外来 外来医長）
「インプラント治療におけるコミュニケーション」
松岡恵理子（日本歯科大学新潟病院・口腔インプラントセンター主任歯科衛生士）

<ランチョンセミナー、一般口演（歯科衛生士）、企業展示会>

【会員懇親会】

日 時：平成20年10月12日（日）学術大会1日目終了後
場 所：ANAクラウンプラザホテル新潟 参加費：8,000円
※完全事前登録制（ブラックタイ、着席スタイルでのフォーマルな様式で行います。）

【準備委員会】

日本歯科大学新潟生命歯学部・歯科保存学第2講座内
実行委員長：新海航一 準備委員長：海老原 隆
〒951-8580新潟市中央区浜浦町1-8
Tel：025-267-1500（内線332） Fax：025-265-7259
E-mail：yoshirok@ngt.ndu.ac.jp

【大会事務局】

（財）口腔保健協会コンベンション事業部内「第19回日本歯科審美学会総会・学術大会運営事務局」
〒170-0003東京都豊島区駒込1-43-9 駒込TSビル301
Tel：03-3947-8761 Fax：03-3947-8873
E-mail：jaed19@kokuhoken.or.jp



2008年 Summer Vol.17 (2008年8月発行) より

アジア歯科審美学会2008年学術大会報告

Global Aesthetic in Bali 2008に参加して

愛知学院大学歯学部保存修復学講座 富士谷盛興

2008年5月2日～4日、インドネシアのバリ (GRAND HYATT Nusa Dua, Bali) で開催されました第10回アジア歯科審美学会に参加してきました。この度の大会は、インドネシア歯科審美学会 (IAAD) との共催ならびにインドネシアインプラント学会との併催であり、GAiB (Global Aesthetic in Bali) という事で開催されました。

アジア歯科審美学会 (AAAD) は、Dharma会長 (インドネシア・任期は本大会までで、現在は2008-2010会長としてマレーシアのSim会長) のもとで活動を行っており、GAiB2008は徳島大学に留学経験のあるDr. Wigiant大会長を中心に開催されました。ちなみに、ご記憶の皆様も多いかと思いますが、日本歯科審美学会は平成6年の第5回学術大会 (鹿児島大会: 長岡英一実行委員長) で第3回AAAD学術大会を、また最近では平成16年の第15回学術大会 (Global Esthetic Forum2004 @ NAGOYA: 千田彰大会長) で第8回AAADのホストをしております。

この度は、久光久日本歯科審美学会会長のご高配により、Lecture形式で約1時間講演する機会を得る事ができました。

メイン会場において、Aesthetic restorations based on the concept of Minimal intervention - How to use dental adhesive up to its potential - なるタイトルで、とくにStrategy for aesthetic restorative treatments with minimal invasionについてお話ししました。約200余名の聴衆の参加があったそうで、質問も約30分にわたってありました。

他に美しい笑顔 - Total Beautyを中心にセラミックス、インプラント、ホワイトニング、矯正、MI接着審美、歯周から歯内の審美に至るまで、Lecture、Workshop、Hands-onなど様々な形式で話題が提供されました。

アジア歯科審美学会は、日本歯科審美学会のメンバーも中心となり、アジア諸国の代表的な臨床家とともに「アジアの人々」のための歯科審美の発展と貢献を意図して1990年に設立されました。近隣のアジア諸国をはじめ、インド、トルコ、中央アジア諸国 (ウズベキスタンなど) までの地域をカバーする大規模の国際学術団体に発展しております。

AAADの次期会長 (2010-2012会長) は、本学会会長の久光久先生です。したがって、近い将来日本の地におけるアジア歯科審美学会学術大会開催を日本歯科審美学会を中心にホスティングすることになるかと思えます。

本学会の国際渉外委員として、会員の皆様のご協力を切にお願いする次第でございます。今後ともどうか宜しくお願い申し上げます。



学会が開催されたGrand Hyatt Bali



会場への通路に張られていた
私のポスターと記念撮影



ウエルカムディナーにて、左よりIFED前会長
Dr.Ko、
大会長Dr.Dharma、久光久日本審美歯科学会会長



Dr.Ko夫妻を囲んでの記念撮影



2008年 Summer Vol.17 (2008年8月発行) より

優秀発表賞受賞者のご紹介



第17回学術大会学会優秀発表賞を受賞して

大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座 楠本哲次

この度は、第17回国学術大会学会優秀発表賞をいただき大変光栄に思っています。

今回の発表は、平成17年度認定医審査会でプレゼンテーションを行った長期経過観察症例で、日本歯科審美学会認定医制度施行細則の第7条に、「認定医審査に合格したものは、直ちにプレゼンテーションを行った「長期症例」について「歯科審美」に臨床論文として投稿しなければならない」と規定されていますので、第17回日本歯科審美学会学術大会でポスター発表するとともに、歯科審美19巻2号に臨床論文として投稿させていただきました。

内容は、交通事故によって失われた骨欠損部に1992年当初緒についたばかりのGuided Bone Regenerationを患者さんのご理解を得て実施し、インプラント支持の補綴装置を装着するまでの一連の流れを報告したものです。その結果、22歳の若さで一生義歯を装着しなければならない状況から一転して固定性補綴装置による前臼歯部の審美的回復ができ、大きな喜びと満足感が得られた感慨深い症例でした。

最近どの学会の学術雑誌への論文投稿もEBMに役立つハードルの高い研究が要求され、症例報告論文が低い評価を受けています。EBMも重要ですが、われわれ歯科医師は、患者さんひとりひとりの歯科的情報、心身両面にわたる全人的な情報、検査を含む客観的な情報など、幅広い数多くの情報を収集し、それらの情報を基に、問題点を抽出、整理し、問題点に対する適切なアセスメントを患者と共に決定し、治療を進めなければなりません。それらの内容を十分に吟味した症例報告は今後とも必要ではないかと思えます。

今回、症例報告論文として掲載いただいた懐の大きな審美学会にお礼申し上げますとともに、優秀発表賞に選出していただいたことに心より感謝いたします。



学会優秀論文賞を受賞して

朝日大学口腔機能修復学講座 歯科学補綴学分野歯冠修復学分
野 岡 正信

この度、第17回日本歯科審美学会学術大会学会優秀論文賞を受賞し、大変光栄に思います。
この研究は、歯科審美修復において、大きな役割を担うコンポジットレジン半透明性について

て光の分散、屈折、散乱等の性質を解明することを目的として行いました。

コンポジットレジンの色彩、透明性を考える場合、表面からの拡散反射光線だけでなく、コンポジットレジンの内部に侵入した光線、特に透過光線についても比較検討することが必要であります。またコンポジットレジンで歯の色彩を正確に再現するためには、天然歯との比較が必須であると考え、フィルテックシュープリーム（3M ESPE）、クリアフィルマジエステイー（クラレメディカル）を用いて、その構造および透明性をヒト健全抜去歯と比較検討しました。

その結果、コンポジットレジンと歯質の透明性を評価するには、透過光線（光線透過率の測定）と反射光線（コントラスト比、TP値の測定）による、総合的な判断が必要であると思われました。

透過光強度分布は透明性の評価に有用であり、その分布状態によりコンポジットレジンの光拡散性が判断できました。さらに、TEM観察ではコンポジットレジンのフィラーや顔料の粒径、形状、分布などが解明できました。

これからの臨床の場においては、コンポジットレジン選択にはシェードだけではなく透明性も必ず考慮に入れることが重要です。

※この研究は、朝日大学・山本宏治教授、堀田正人准教授、ならびに同講座の先生方、株式会社松風のご指導とご協力によるものです。

学会優秀発表賞は、ポスター発表後学会誌に原著論文あるいは臨床論文として掲載された論文の中から、研究報告と臨床報告の各一編を学会優秀発表賞選考委員会において選考されました。



2008年 Summer Vol.17 (2008年8月発行) より

ホワイトニングコーディネーター講習会のご案内

ホワイトニングコーディネーター3,000名突破
フォローアップのためのハンズオンセミナーを開催

ホワイトニングコーディネーター委員会委員長 佐藤 孝

ホワイトニングコーディネーターの資格試験も9回と回を重ね、すでに3,000名以上の資格取得者が誕生し、内500名以上の歯科衛生士の方々が本学会会員となりました。ホワイトニングコーディネーター委員会では、資格を取得された会員の方々に対するフォローアップの目的で、「ホワイトニングフェスティバル」と題し東京(平成20年12月21日)、大阪(平成21年3月8日)の2ヶ所で講演とハンズオンセミナーを行うことを企画しています。

技術的な講演会は各企業が個々に行うことが多いのですが、委員会では、会員が本当に欲しい情報を自由に選ぶことができるような内容を考えました。

日本歯科審美学会は企業、大学、臨床家からなるユニークな枠にとらわれない学会ですので、その立場を大いに活かし、あらゆる企業の協賛を得て行いたいと思います。本学会初めての試みですので、できるだけ多くの参加者を募りたいと考えております。皆様の協力をお願いいたします。

ホワイトニングコーディネーターのフォローアップの意味もありますが、演者は各分野に精通しておられる当委員会の先生方、学会の理事の先生方をお願いいたしました。参加対象者は歯科医師、歯科衛生士、非会員も対象ですので、ふるつてご参加下さいますようお願いいたします。





2008年 Summer Vol.17 (2008年8月発行) より

委員会報告

財務報告

少しばかり元気のない歯科医療分野のなかにあつて、日本歯科審美学会は患者さんの願いやニーズをしっかりと受け止め、診療という実践的なプロセスによってこれらを具現化してゆこうと努める活気ある医療人・研究者の組織として存在しております。

その会員は平成20年3月31日現在、2,675名（法人会員25社を含む）を数え、2年前の同日に比べ711名の増加となっております。これは会員各位の本学会に対する期待の“現れ”と同時こ、学会を介して得ることのできる豊富な情報量、さらには自らのスキルアップや患者さんに質の高い歯科医療を還元してゆくために有益となる資格取得の機会など、多岐にわたる活動が学会によって提供されていることによると考えます。

日本歯科審美学会ではこれら活動を担うため、編集・学術・セミナー・国際渉外、国内渉外、会則検討・学会活性化・倫理・ホワイトニングコーディネーター・MTM研修推進・デンタルカラーコーディネーター・会員証カード・広報・表彰・法人化検討に対する15委員会、および認定医・認定士への2審議会が設置され、所属委員の精力的かつ献身的なご尽力によって運営がなされております。

特に本年度の事業計画としては、学会雑誌「歯科審美」発行、第19回学術大会開催（平成20年10月12・13日：日本歯科大学新潟生命歯学部）、セミナー開催（5回）、認定医・認定士申請者の申請促進と審査、認定講習会開催、ホワイトニングコーディネーター認定事業（5回）、ニュースレター発行、ホームページの管理運営、学会優秀発表賞等の選考および表彰、国際歯科審美学会・アジア歯科審美学会・韓国歯科審美学会との学術交流、市民公開講座開催、会員カード発行などが挙げられており、それぞれ着々と進捗しております。

これら事業を成就させるための本年度予算としては、会員各位からの入会・年会費をはじめ、論文・公告掲載料や各種事業収入による約3,960万円の歳入を基盤として、常任理事会・理事会・評議員会・総会の慎重審議を経た活動費として適正に各委員会・審議会へ歳出費として配分がなされております。また、委員会・審議会の活動内容や目的にはそれぞれの特徴や特殊性が存在し、異なる分野・領域から本学会に対して多大な貢献がなされており、各委員会・審議会の活動がその目的遂行のために適切になされている限りにおいては、単一事業としての収支結果を問うことを避け、学会組織全体として対応することが望まれます。しかしながら、会員各位ならびに学会事業参加者から“お預かり”したともいえる貴重かつ限りある財源を、有効かつ創造的に活用することが学会に求められております。

財務としましては、各委員会・審議会に対し真摯なる対応を願い、会員各位への貢献、患者さん・国民への寄与を見据えた本学会の調整役として努めさせていただきますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

(財務担当常任理事 奈良陽一郎)

学術委員会

学術委員会の今後の活動方針

久光久会長の下、新しい執行部が4月より発足いたしました。本執行部体制におきまして学術委員会委員長を務めさせていただきます。会員の皆様方のご期待に添えるよう委員会メンバー共々精一杯頑張りますのでよろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。

さて、学術委員会の今後の活動方針を述べさせていただきます。

1. 年度学術大会内容の企画の協議・立案

年1回開催されます学術大会は、これまで担当校主導型で進められ、毎年特色ある学会が開催され会員に多くの感動を与えていただいています。このような開催方針については今後も変わりありませんが、会長の学会主導方針を加味し、「日本歯科審美学会」としての一貫性をもたすべく、継続性の必要を感じています。そこで、社会のニーズにあった、トレンドな話題について執行部の意向を反映させるべく講演内容を加味し、開催担当校との意見交換を行っていきたいと思います。

2. 優秀発表賞の選出準備と選定

学会規程に則り、優秀発表賞（デンツプライ特別賞）の選出準備と選出結果を取りまとめ、常任理事会に提出作業を行う

3. 各委員会主催の講習会・研修会の掌握と統括

セミナー、ホワイトニングコーディネーター、デンタルカラーコーディネーター、認定医・認定士などの講習会や研修事業の開催にあたっては、事前に各委員会から報告を受け、日程調整や内容企画などについて精査し、学会として一貫性のある事業に統括する

4. 諮問事項についての検討

常時、会長および各委員会との連携を密にし、会長はじめ各委員会委員長の要請を受け、諮問事項について検討する

【委員会メンバー】委員長：末瀬一彦（大阪歯科大学）、委員：宮崎 隆（昭和大学歯学部）、桃井保子（鶴見大学歯学部）、高橋英登（東京都）、橋場千織（東京都）、小川夏子（鶴見大学附属病院）

（委員長 末瀬一彦）

編集委員会

平成20・21年度編集委員会の報告をさせていただきます。久光会長の要請で私、寺田善博（九大）が編集委員長に再任されました。基本的に前委員会を引き継ぐ方針で進めていきたいと思っております。そこで、副委員長には新海航一先生をはじめ渋谷耕司先生、末瀬一彦先生、濱野 徹先生、日野浦 光先生、森田修一先生、山本克之先生の6名にも留任して頂きました。新委員として、千田 彰先生と歯科衛生士部門から山羽京子先生をお願い致しました。編集幹事には私どもの教室の福田匡輔先生に留任をお願いして、新しい委員会がスタート致しました。

平成20年度第1回編集委員会を6月27日（金）に開催致しました。この委員会では、平成20年9月発行予定の第21巻1号の編集作業を行いました。第21巻1号には、平成19年11月に九州大学の主管で開催された歯科審美学会で発表された内容の原稿を主として掲載致します。特集については、第20巻2号に引き続き「歯のホワイトニング」を取りあげます。第19巻1号から「審美歯科関連の外来紹介」の掲載を始めましたが、第21巻1号でも引き続き掲載致します。以前にも報告致しましたが、第15回国学術大会から、講演論文の提出義務づけを廃止しましたので、自動的に論文が集まらなくなりました。そこで、紙面充実について検討を進めてきました。論文の区分として、原著論文、臨床論文（症例報告、各種術式、臨床のヒントなど）、総説、特集、誌上セミナーなどを取り上げて、紙面充実をはかることに致しました。

今後とも委員会としては紙面充実に努力したいと思っておりますので、皆様のご協力をお願い致します。

（委員長 寺田善博）

セミナー委員会

今年度、平成20年4月から、セミナー委員会委員長を拝命いたしました。今年度のメインテーマを「審美歯科を活用し、医院を活性化する！」とし、サブテーマとして「チーム医療」を掲げております。開業医の多くの会員の先生方の明日の臨床にすぐお役に立つような企画と昨年から開催されております、ホワイトニングコーディネーター養成セミナーへのフォローとしてのコーディネーター委員会との合同セミナーの開催の二本柱で活動してまいります。

委員の構成は、佐藤博信先生（福岡歯科大学教授）、宮崎真至先生（日本大学歯学部教授）、日野年澄先生（大阪心齋橋開業）、有田博一先生（東京新宿開業）、坪田健嗣先生（東京赤坂開業）、中込敏夫先生（JADE）、斉藤哲也先生（T'Sテクニカルスタジオ）、田島菜穂子先生（ナグモ歯科赤坂クリニック勤務）、中村映子先生（ナグモ歯科クワバラクリニック勤務）、桑原栄（さいたま市開業）以上10名の先生方です。日常の臨床でご活躍の、大学、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士の先生方です。

今年度は5回のセミナーを行います。

●第1回セミナー

【日時】2008年8月3日（日）【会場】ベルサール八重洲（東京）

『開業医として成功するには？ partI』“明確なコンセプトを持って仕事をする”

講師：小林和一先生、須崎明先生、宮内修平先生

●第2回セミナー

【日時】2008年9月7日（日）【会場】大阪大学中之島センター（大阪）

『歯周組織を美しく！』“歯冠修復物と周囲組織の調和が審美歯科の真骨頂”

講師：鈴木朋湖先生、高橋純一先生、吉永仁先生、瀬戸延泰先生

●第3回セミナー

【日時】2008年12月21日（日）【会場】TFTホール（東京）

【内容】“ホワイトニングフェスティバル2008 Winter”と称して、日本歯科審美学会ホワイトニングコーディネーター委員会とジョイントセミナーを開催します。講演あり、ハンズオン有り、

メーカー展示有りのホワイトニングにおける一大イベントを開催予定です。

●第4回セミナー

【日時】2009年3月1日（日）【会場】福岡国際会議場（九州）

【内容】“開業医として成功するには？ Part II”についてのセミナーを予定しております。

●第5回セミナー

【日時】2009年3月8日（日）【会場】ATCホール（大阪）

【内容】上記第3回セミナーと同様です。

会員のためのセミナーとして貢献することを第一に考えておりますが、執行部、委員会の先生方のご指導・ご協力をいただき、更に充実したセミナーにしたいと思っております。

(委員長 桑原 栄)

国際渉外委員会

平成20年度の国際渉外委員長を拝命した中村（大阪大）です。

昨年は、懸案であった韓国歯科審美学会との姉妹協定を締結することができました。今年は、姉妹協定に基づいて日本歯科審美学会の新潟大会に韓国からのゲストをお迎えする予定です。このように、引き続き 海外の学会との交流を積極的に進めていきたいと考えております。

本年度から、国際渉外委員として、近藤隆一（東京都）、田上直美（長崎大）、林 実加子（大阪大）、富士谷盛興（愛知学院大）、若林一道（大阪大・幹事兼任）の各先生に就任いただきました。会員の皆さま、どうぞよろしくお願い申し上げます。

日本歯科審美学会が重要な役割を果たす国際学会には、AAAD（アジア歯科審美学会）とIFED（国際審美歯科連盟）の2つがあげられます。いずれも各国の審美学会が参加して構成される連盟（Federation）であり、原則として個人で参加するものではありません。本年5月には、AAADの第10回大会がDr. Dharma会長（当時）の地元であるインドネシアのバリ島で開催され、日本や韓国などアジア各国やヨーロッパ、アメリカの招待演者が中心となって発表を行いました。この学会では、日本歯科審美学会の推薦で国際渉外委員の富士谷先生に講演をしていただきました。また、会期中に開かれた役員会で日本の久光会長がAAAD次期会長に選ばれました。次回の第11回大会は、Dr. Tang Eng Sim現会長のもとで2010年にマレーシアで開催予定です。

歯科審美の分野で最も参加国が多く国際的に活躍しているのがIFEDです。IFEDは、昨年5月に韓国の歯科審美学会がホストになりソウル大会（大会長Dr. Ko）が開催されました。次回は、来年（2009年）8月にAAED（American Academy of Esthetic Dentistry）がホストとなりラスベガスで開催予定です。この学会では、日本歯科審美学会の推薦で宮崎真至先生（日大）が講演されることが決まっています。日本の歯科審美学会会員の皆さまも多数参加いただけることを願っております。

(委員長 中村隆志)

会則検討委員会

会則検討委員会委員長に就任して

平成20年度より委員長になりました新潟大学歯学部口腔生命福祉学科の福島正義です。田上会

長時代は総務を担当して、次期会長選出に関する会則変更について長岡前委員長のお手伝いをさせていただきました。現在のところ会則に関する課題はありませんが、会員の増加、新規事業の拡大、法人化の検討などにより会則の改正もありうるものと予想されます。

委員会メンバーには経験豊富な長岡前委員長と会則委員長付幹事の経験のある富士谷委員にお願いしました。これから2年間の任期中は皆様のご支援を得て精一杯尽力する所存ですのでよろしくお願い申し上げます。

(委員長 福島正義)

国内渉外委員会

国内渉外委員会の設置について

久光新会長より新たに新設された国内渉外委員会の委員長を仰せつかりました。会則検討委員会との併任でやや任が重いのですが、学会の発展に寄与できれば幸いです。

海外との連携については従来より国際渉外委員会が活発に活動しておりますが、国内での交渉事については、特に検討する委員会はありませんでした。本学会の会員構成は歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、協賛企業を中心として学際的です。昨年には接着歯学会との合同学術大会が開催されたように、それぞれの会員が本来専門とする学会との連携が今後重要になるとの会長の見解から国内渉外委員会が設置されました。今後の具体的な活動についてはまだ模索中ですが、他学会との共同学術企画などは学術委員会との連携が必要と思われます。まずは国内関連の諸事の窓口から始めることになると思いますので、さまざまなお意見を賜れば幸いです。

委員会メンバーは臨床家の日野浦委員、歯科衛生士会員の武井委員、歯科技工士会員の渡邊委員、歯科矯正分野の森田委員です。2年間の任期中は皆様のご支援を得て精一杯尽力する所存ですのでよろしくお願い申し上げます。

(委員長 福島正義)

学会活性化委員会報告

本会はホワイトニングコーディネーターの認定制度制定を機に、歯科衛生士会員が急増し、会員総数も3,000名に迫ろうかという勢いで伸びております。このたび活発な学会活動を継続させるため、学会活性化委員会が発足いたしました。新設の委員会として 既設の委員会と連携を取りつつ、学会に気合いを入れることを目標としております。本会は歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士が独立して認定医、認定士、コーディネーターを認定するユニークな学会です。三者が切磋琢磨して審美歯科医療の向上に寄与することを側面から支援するのも本委員会の責務かと存じます。

委員会活動はこれからですが、以下のメンバーが会務を担当いたします。ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

【委員会メンバー】委員：大槻昌幸（東京医科歯科大）、酒井 珠材（酒井歯科）、佐藤由紀子（ナグモ歯科赤坂クリニック）、中村佳代子（長崎大）、日野浦光（日野浦歯科医院）、真鍋厚史（昭和大）、柵木寿男（日本歯科大）、松村英雄（日本大）、幹事：小峰 太（日本大）

倫理委員会

「会員行動規範」の策定について

現在、倫理委員会では、本年度内の制定をめざし「日本歯科審美学会会員行動規範」を策定中です。本規範の策定は、田上順次前会長の要請によりスタートしましたが、折しも、我が国の学問領域を代表する機関である日本学術会議が、声明「科学者の行動規範について」を公表しました（平成18年10月3日）。同声明は、全ての大学、研究機関、学会に対して、声明の中の「科学者の行動規範」を参照し、自らの行動規範を策定するよう要望したものでした。声明の表出に合わせ、金澤一郎日本学術会議会長は、科学者倫理の確立に向けて、それぞれの分野に応じた行動規範と倫理プログラムを策定し、それを実施することで社会の信頼を得るよう要請しました。

歯科審美は、複数の学問・臨床分野を統合して審美性の追求を行うという、新しい歯科医学領域です。本学会は、我が国においてこの領域を代表する機関といえますが、その特異性は、疾病と一線を画する審美にかかわる臨床を主軸とする点にあります。会員は、保険診療でカバーされない自由歯科診療を多く担っています。このため、執行部ではかねてより、会員が職責を自覚し、常に品位を持って行動するよう、会としての理念を掲げること、また、ネガティブな思考ではありませんが、反倫理的行為や不正行為を抑止するために、会員としての行動規範を示しておくことは喫緊の課題と考えていました。

このような経緯から、倫理委員会が中心となり、「会員行動規範」の草案が作成されました。規範は、会員の基本的心がまえ、会員の行動、法令等の遵守、研究対象等への配慮、他社との関係、差別の排除・利益相反、会員行動規範違反に対する処置、その他の項目から構成されています。本年6月の役員会を経て、現在、さらに加えるべき倫理などを検討しており、最終草案は来たる10月の役員会に上程される予定です。

(委員長 桃井保子)

ホワイトニングコーディネーター委員会

ホワイトニングコーディネーター（以下WC）講習会・認定試験は、第一回が平成19年2月に昭和大学旗の台校舎で行われてから、今年6月に札幌で行われたWC講習会・認定試験までで早いもので、もう9回を重ねたこととなります。平成18年6月29日のWC委員会の第一回会議事メモを取り出して見ますと、検討しなければならなかった事項だけで、名称、受講・申請者の資格、受講料・申請料・登録料、講習会・認定試験の概要、認定証・ピンバッジの作成、認定試験問題のガイドライン、実施要綱の作成、規約案の作成、受験資格、更新の条件、開催会場、開催日程、広報の仕方…etc. etcと山積みでした。その後、第一回WC講習会・認定試験開催までほぼ一月に一回の委員会を開き、毎日のようなメールのやりとりを重ね、長い時間を割いて多くの議論を致しました。最初は雲をつかむような段階から、WC委員10人で協力して知恵を出し合い協議し、何とか第一回開催までこぎつけた日には、ほっとしたのを覚えています。しかし170名の会場を用意していたところへ500名以上の応募者が殺到した為、急遽560名の応募者を受け入れる会場に変更して開催した第一回からどの会場も満員で、嬉しい悲鳴をあげました。考えていた以上の衛生士さん達のホワイトニングへの熱い思いに何とか応えようと、一回ごとに実施したアンケートを

もとの、毎回改善点を話し合い前回以上のWC講習会・認定試験を目指しました。9回の総受講者数は3,000名を越えたこととなります。

WCになられた方々のステップアップの為に、WC委員会が今年3月に出したホワイトニングマニュアル本の題名は、－すべての人に白い歯を－です。WC育成を通して、一人でも多くの方が白い歯を手に入れて喜んでいただく為に、今後ともWC委員会は努力し続けていかねばならないと今まで以上に責任を感じております。

なお、第4回までのWC講習会・認定試験の受講者へのアンケートをまとめたポスター発表が、第18回日本歯科審美学会のデンツプライ賞受賞予定とのこと。たいへん光栄と、WC委員全員が今までの努力が報われる思いで感謝しております。

今後とも皆様のご指導とご協力をどうか宜しくお願い申し上げます。

(委員長 星野睦代)



歯科技工士部門

白い歯と歯科技工

現在の歯科治療、特に補綴の分野では、「審美歯科」という言葉が完全に定着し、当たり前のことのように捉えられるようになってきました。患者さんからも白い自然感のある歯の獲得が要求され、それらがジルコニア等新しい分野でのさらなる発展に拍車をかけています。

現在私は東京で開業をしていますが、最近、興味深いことに気がつきました。特に若い女性の患者さんにその傾向が多いのですが、上顎前歯部等の補綴をする際に、「薄くて平坦な形態の歯を求める」方の頻度が多く、それでいて色は「透明感が乏しく、高い明度のものを求める」というものです。これは、形では目立たず、色ではインパクトのあるという、いわば形態と色で考え方の相反するものとなります。「なぜなんだろう？」と考えてみましたが、どうもピンときません。

製作する立場としては、透明感を押さえ、明度を高くするというのは比較的単純な手法で達成できるため苦労はしませんが、「自然美の追求」という部分では、何となく不満（自己満足ですが）が残ります。そんな時、折良く一人の患者さんと話をする機会を得たので、どうしてそのような歯を望むのかと尋ねたところ、一言、「私の好きなモデルさんがそうだから」という答えが返ってきました。これはこれで必要十分な理由であります。

私自身もそうですが、どうも我々歯科技工士は、一つの形にはまってしまい、これが正しい、これがあるべき姿であると決めてしまいがちですが、機能的なものは別として、特に美を感じる部分というのは時代の変化に伴い大きくその考え方が変わるようでもあります。それに流される

ことが良いことなのかどうかは解りませんが、大切な事は何なのかを伝える努力は必要だとは思いますが、患者の要求を理解することもとても重要だと思います。

私にとって当たり前になっていた「審美歯科」という言葉が、体の中で久しぶりに大きく膨らんだ時でありました。今後の展開が楽しみです。

(歯科技工士部門常任理事 中込敏夫)

歯科衛生士部門

今年度より、田島菜穂子先生の後任として、歯科衛生士部門を担当させていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

2008年6月2日の常任理事会で報告させていただいた歯科衛生士の会員数は658名で、勤務場所の内訳としましては、開業医が560名と圧倒的に多く、その次が大学病院41名、その他40名、企業17名となっております。

2007年よりはじまりましたホワイトニングコーディネーター認定制度の反響が予想していた以上に大きく、それに伴い歯科衛生士の会員数を大幅に増やすことができました。

これまでの審美歯科では、歯科衛生士の役割も限られていましたが、ホワイトニングの普及により、歯科衛生士も審美歯科との関わりが非常に大きくなったことが、多くのホワイトニングコーディネーターの誕生や会員数の増加につながったのではないかと思います。

今後の課題として依りては、入会された歯科衛生士の方々に、審美歯科の中での役割を見だし、実際に臨床でも活かしてもらえようような内容のものを提供していくことが必要であると考えております。そして、会員数だけでなく認定士の増加も目指し、審美歯科の分野でも歯科衛生士の活躍の場が広がるよう、皆さま方のご協力も得ながら、学会の発展に貢献していきたいと思っております。

(歯科衛生士部門常任理事 永瀬佳奈)

認定医審議会・認定士審議会

会員の皆様には日頃より日本歯科審美学会「認定医審議会・認定士審議会」に対しましてご理解・ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。本委員会では、認定医制度総則および認定士制度総則に則って、「専門的知識および臨床技能・経験を有する歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士による歯科審美領域の高度な水準の維持と向上を図り、国民の健康福祉に貢献する」ためのプロフェッショナル養成を目指し、「認定医ならびに認定士審査」および認定医ならびに認定士制度の運営」を行っています。

前委員長である末瀬一彦先生の後任として委員長を仰せつかりました。何分不慣れで、浅学非才ではございますが、本学会の発展のために微力ながら貢献できればと考えておりますので今後とも更なるご理解・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

当委員会の新メンバーは、委員長のほか、認定医審議会委員として、大森かをる先生、香川正之先生、齋藤文明先生、富士谷盛興先生、真鍋厚史先生、宮崎真至先生の計7名、認定士審議会委員として以上の先生方の他に歯科技工士の中込敏夫先生、齋藤哲也先生、歯科衛生士の田島菜穂子先生、中村映子先生の合計11名の優秀な先生方でございます。副委員長は真鍋先生、幹事は香川先生にお願いしました。

ちなみに、現在までに認定資格取得者数は、認定医76名、認定士37名（歯科技工士27名、歯科衛生士10名）となっております。

会員数2,000名を越える当学会としては、認定医・認定士の取得数が極めて少ないのが現状であり、当審議会委員会としては、今後より多くの会員に認定資格取得申請をしていただきたいと考えており、そのための方策も考えております。なお、認定医申請は年2回、春期と秋期に、認定士は年1回春期に行っております。それらの時期や方法の詳細に関しては、日本歯科審美学会のホームページに掲載しておりますのでご閲覧下さい。

皆様、是非とも奮ってチャレンジしていただきますようお願い申し上げます。

(認定医審議会・認定士審議会委員長 宮内修平)



審議会委員会メンバー懇親会

MTM研修推進委員会

本学会に今期から新たに設けられましたMTM研修推進委員会では、審美歯科臨床におけるMTMのあり方について検討を行います。その上で、学会として、MTMの標準化を目的にガイドラインを作成する予定です。将来的にはガイドラインを基に、審美歯科臨床におけるMTMの臨床応用について研修会を開催することを考えております。

そのため、委員には各分野で造詣の深い先生方にご就任をいただきました。メンバー（敬称略）は委員長の他、田上順次（東京医歯大）、黒田康子（大阪府）、桑原 栄（埼玉県）、富士谷盛興（愛知学院大）、照井崇之（岩手県）、佐藤和朗（岩手医科大）と歯科技工士の中込敏夫です。ガイドラインの作成にあたっては、学問上の見解と実際の臨床との間に齟齬がないのが望ましいことと考えます。またガイドラインが、今後の審美歯科臨床の発展の一助となるものになりたいと考えております。そこで、まず審美歯科臨床におけるMTMの実状を把握することから始めます。会員の皆様にもアンケート等で、ご協力をお願いすることとなると思います。よろしくお願い申し上げます。

(委員長 三浦廣行)

デンタルカラーコーディネーター委員会

日本歯科審美学会デンタルカラーコーディネーター委員会は、歯の色をより詳しく知り高度な歯科審美処置のできるデンタルカラーコーディネーターの養成を目的として設置された。デンタルカラーコーディネーターの対象は、主に審美性の高い技工物の作成を要求される歯科技工士、高度なレジン修復（レイヤリングテクニック）を駆使する歯科医師であるが、スキルアップを目指し歯の色に関心の高い歯科衛生士も含まれる。本委員会は、東光照夫（昭和大学歯学部）、末瀬 一彦（大阪歯科大学歯科技工士専門学校）、大槻昌幸（東京医科歯科大学）、池島巖（鶴見大学）、田中 誠（愛歯技工専門学校）、吉田周平（クリスタルデント）（順不同、敬称略）で構成されている。現在、デンタルカラーコーディネーター制度の策定を行ないつつある。

（委員長 東光照夫）

会員証カード委員会

「会員証カード委員会」は、今年度の事業計画に則りスタートした委員会です。

現在、日本歯科審美学会は、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士を始めとして、歯科審美にかかわる方々により会員構成され現在2,600余名の多数の会員の皆さんにより組織されております。その中で、日本歯科審美学会が認定した種々の資格制度が設けられており、また、各種のセミナー等も開催されております。

このような状況を踏まえて、より良い会員の管理方法、会員方への利便性等を鑑みて「会員証カード」を検討してみても如何かと設けられた委員会です。

現在ではIT化が進み、一枚のカードに多量の情報が蓄積できその用途も多様化してきています。例えば本会会員の皆様にカードをお持ちいただくことにより、ご自分の会員歴、学術大会や各種セミナー等の参加歴がカードに記憶され、それをご自分で閲覧確認も可能となり大変便利になります。ただ一方では、蓄積情報量の多寡、カードの種類等によっても、掛かる費用も異なってきます。

本委員会では、将来的にも有効活用でき費用対効果等を多角的に検討して一定の方向をご提案できればと検討を始めた所です。

いずれにしても、会員の皆様方に喜ばれ本会にとっても有益な内容となるようなカードを検討させていただいておりますので、皆様方よりのご意見を頂ければ幸いですし楽しみにしていただければと思います。

（委員長 齊木好太郎）

表彰委員会

久光久新学会長のもと表彰委員会が新設されました。これまで、表彰に関しては、会則第6章第26条「表彰（学会優秀発表賞及びその他の賞）を行う。なお、各賞に関する必要事項は別に定める。」で運用され、学術委員会と編集委員会が担ってきました。しかし、論文投稿が少ないことから、その趣旨が十分生かされていないのが実情でした。また、どの学会でも学会発展に尽力された功労者の表彰がなされ、歯周病学会では歯科衛生士を表彰するベストハイジニスト賞が設け

られていますが、本学会にはこのような表彰規程がありません。さらに、多くの学会で若手だけでなく、中堅や指導者クラスの表彰も行われています。そこで、表彰委員会のメンバーとしては、上記のような不備を改善するのに適任で、見識の高い先生方に委員就任をお願いしました。

メンバー（50音順、敬称略）は、加藤喜郎（常任理事）、鎌下祐次（幹事）、近藤悦子（理事）、佐藤博信（理事）、末瀬一彦（常任理事：学術委員長）、寺田善博（常任理事：編集委員長）、中込敏夫先生（常任理事：技工士部門担当）、長岡英一（常任理事：委員長）、永瀬佳奈（常任理事：衛生士部門担当）です。現在、学会の活性化に寄与できる表彰制度のあり方を検討しながら、表彰制度の規程及び細則の原案作りを行っています。

兎に角、規程と細則を作成して、運用しながら、より良いものにしたいと考えています。会員諸兄弟のご理解とご支援をお願い申し上げます。

（委員長 長岡英一）

法人化検討委員会

学会組織において「法人」に対する単語として「任意団体」があります。法人は法律上、権利・義務の主体たる資格が与えられたもので、定款などの規則により総会で意思が決定される団体です。本学会は運営形態としては法人に準じておりますが、所轄官庁に対して法人化の申請を行わず、任意団体として活動しております。学会の法人化は会員にとってメリット、デメリットの双方があり、多面的かつ慎重に検討する必要があります。この法人化の是非を検討するための委員会が本委員会であります。

平成20-21年度は以下の構成で委員会活動を行います。どうぞよろしくお願いいたします。
【委員会メンバー】委員：田上順次（東京医科歯科大）、佐藤孝（ナグモ歯科赤坂クリニック）、長岡英一（鹿児島大）、松村英雄（日本大）、幹事：小泉寛恭（日本大）

（委員長 松村英雄）

広報委員会

ホームページは、今日では会員はもちろん一般社会に広く情報を伝えるために必要不可欠の情報媒体であり、会長とともにある意味学会の顔とも言えるものでありましょう。現在のホームページの体裁になって5年経過しましたので、広報委員会ではこの際お化粧直しが必要ではないかと考えています。昨年日本歯科医学会の認定分化会に認められたことに伴いリンク先も増加し、より多くの方の目に触れるようになる事を想定して、2年間で、充実したものにすべく努力いたします。

一方、Newsletterというアナログの情報誌は会員の皆様に本会の活動を知っていただくことを目的として、委員会活動を積極的に紹介させていただきまします。今回は計画が遅くなり、その上暑い間に会員の皆様にお届けしたいと、役員、委員会委員長の各先生方に無理なご依頼をいたしました。諸先生の絶大なるご協力の御蔭で、このようにお届けすることができました。また、新企画として賛助会員企業様の紹介ページが増えました。

今期審美学会広報を担って下さるメンバー（50音順、敬称略）は、大槻昌幸（東京医歯大）、木村美佐子（佐藤歯科医院衛生士）、椿智之（東京都開業）、橋場千織（東京都開業）、古谷彰伸（千葉県開業）、若林一道（阪大歯）です。皆様からの情報、ご助言をお待ちしておりますので、よろしくお願いいたします。

（委員長 黒田康子）

[Back](#) |



2008年 Summer Vol.17 (2008年8月発行) より

大阪大学歯学部附属病院予防歯科口臭外来の紹介

大阪大学歯学部附属病院予防歯科講師 田中宗雄

大阪大学歯学部附属病院予防歯科では1999年より専門外来として「口臭外来」を設置し、治療を開始しました。それ以来、来院患者数は1,000名を超え、現在でも週に数名の初診患者さんが来院されます。

【口臭に関する問診】口臭は自分自身で客観的に判断することが困難なため、ほとんどの患者さんは他人の言葉やしぐさからその存在を推理しています。当科では患者さんが「口臭が存在している」と考える根拠について問診を行い、加えて「どのような状態になれば治癒したと思うことができるのか」確認しています。

【口腔内診査】口臭の原因は口腔内にあることが多いため、口腔内診査は欠かせません。特に舌苔の付着と歯周病は口臭の発生に強くかかわっているため、これらの診査は重要です。

【口臭評価】口臭外来を受診される多くの患者さんは、「自身の口臭の程度を客観的に知ることができないために不安になる」と訴えます。そのため最初にできるだけ正確に口臭の評価を行います。当科ではヒト嗅覚を用いた官能検査と呼気中の揮発性硫化物濃度をガスクロマトグラフィーにより定量する方法を併用することで総合的な口臭評価を行っています。

【診断】口臭測定の結果、口臭の存在が確認できなかった場合には日を改めて測定を行います。数回測定を繰り返しても口臭が検出できなかった場合には、口臭の再発予防を目的としたメンテナンスに移行します。口臭の存在が確認できた場合は、徹底的にPMTCを行った後、同一日に再度口臭の測定を行います。2回目の測定で口臭の消失が確認できた場合には、口臭の原因は口腔内にあると考えられ、測定値の改善があまり見られなかった場合には、口腔以外に原因がある可能性を疑います。

【治療】口臭の治療には口腔衛生状態の確立が最も重要です。患者さんは熱心に歯および舌を清掃しているのですが、誤った方法で行っているため口臭が消失しない場合が多く見られます。特に舌苔を取ろうとして舌背が傷だらけになっていることも珍しくありません。

【予後】数ヶ月間の治療で、ほぼ全ての患者さんの口臭測定の結果は閾値以下となるのですが、「頭では治ったと理解できるのだが、他人のしぐさを見ると急に不安な気持ちになります。」とフラッシュバック症状を訴える患者さんも多くおられ、このような患者さんへの対応方法を確立することも今後の課題と考えております。



| [Back](#) |

賛助会員一覧

 <p>相田化学工業株式会社</p> <p>相田化学工業株式会社 〒183-0026 東京都府中市南町6-31-2 Tel: 042-366-1201 http://www.aida-j.jp</p>	 <p>アストラテック株式会社</p> <p>アストラテック株式会社 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-7-16 Tel: 03-5775-0515 http://www.astratech.jp</p>	 <p>長田電機工業株式会社</p> <p>長田電機工業株式会社 〒141-8517 東京都品川区西五反田5-17-5 Tel: 03-3492-7651 http://www.osada-electric.co.jp</p>	 <p>クインテッセンス出版株式会社</p> <p>クインテッセンス出版株式会社 〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-6 クイントハウスビル Tel: 03-5842-2270 http://www.quint-j.co.jp/</p>
 <p>医歯薬出版株式会社</p> <p>医歯薬出版株式会社 〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10 Tel: 03-5395-7630 http://www.ishiyaku.co.jp</p>	 <p>Ivoclar Vivadent株式会社</p> <p>Ivoclar Vivadent株式会社 〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-24 4F Tel: 03-6903-3535 http://www.ivoclarvivadent.com</p>	 <p>クラレメディカル株式会社</p> <p>クラレメディカル株式会社 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービル7F Tel: 03-6701-1730 http://www.kuraray.co.jp/dental</p>	 <p>サイブロン・デンタル株式会社</p> <p>サイブロン・デンタル株式会社 〒119-0021 東京都文京区本駒込2-29-24 Tel: 03-5977-3127 http://www.kerr-japan.com/</p>
 <p>ウルトラデントジャパン株式会社</p> <p>ウルトラデントジャパン株式会社 〒105-0012 東京都港区芝大門1-3-15 ATビル2F Tel: 03-3437-0751 http://www.ultradent.com/</p>	 <p>株式会社エイコー</p> <p>株式会社エイコー 〒110-0005 東京都台東区上野3-17-10 Tel: 03-3834-5777 http://www.morimura-jpn.co.jp/</p>	 <p>株式会社ジーシー</p> <p>株式会社ジーシー 〒174-8585 東京都板橋区蓮沼町76-1 Tel: 03-3965-1221 http://www.gc-dental.co.jp/</p>	 <p>株式会社松風</p> <p>株式会社松風 〒605-0983 京都市東山区福福上高松町11 Tel: 075-561-1112 http://www.shofu.co.jp/</p>
 <p>シロナデンタルシステムズ株式会社</p> <p>シロナデンタルシステムズ株式会社 〒108-0074 東京都港区高輪2-15-21 高輪小野ビル3F Tel: 03-5475-2255 http://www.sirona.co.jp</p>	 <p>タカラベルモント株式会社</p> <p>タカラベルモント株式会社 〒542-0083 大阪市中央区東心斎橋2-1-1 Tel: 06-6212-3619 http://www.takara-dental.jp</p>	 <p>プランネットワークス株式会社</p> <p>プランネットワークス株式会社 〒107-0052 東京都港区赤坂1-6-19 KY 溜池ビル Tel: 03-5573-4188 http://www.dentwave.com</p>	 <p>ペンترون ジャパン株式会社</p> <p>ペンترون ジャパン株式会社 〒140-0014 東京都品川区大井4-13-17 レ・ジュ大井6F Tel: 03-5746-0316 http://www.j-pentron.com/</p>
 <p>デンツプライ三金株式会社</p> <p>デンツプライ三金株式会社 〒106-0041 東京都港区麻布台1-9-10 Tel: 03-5114-1001 http://www.dentsply-sankin.com</p>	 <p>株式会社トクヤマデンタル</p> <p>株式会社トクヤマデンタル 〒110-0018 東京都台東区台東1-38-9 イトーピア清洲橋通ビル7F Tel: 03-3835-2261 http://www.tokuyama-dental.co.jp</p>	 <p>株式会社茂久田商会</p> <p>株式会社茂久田商会 〒650-0047 神戸市中央区港島南町4-7-5 Tel: 078-303-8241 http://www.mokuda.co.jp/</p>	 <p>株式会社モモセ歯科商会</p> <p>株式会社モモセ歯科商会 〒543-8691 大阪市天王寺区南河堀町6-35 Tel: 06-6773-3333 http://www.momose-dm.co.jp</p>
 <p>株式会社ニッシン</p> <p>株式会社ニッシン 〒601-8469 京都市南区唐橋平重町8 Tel: 075-681-5719 http://nissin-dental.jp</p>	 <p>白水貿易株式会社</p> <p>白水貿易株式会社 〒532-0033 大阪市淀川区新高1-1-15 Tel: 06-6398-4400 http://www.hakusui-trading.co.jp/</p>	 <p>株式会社モリタ</p> <p>株式会社モリタ 〒564-8650 大阪府吹田市垂水町3-33-18 Tel: 06-6380-2525 http://www.dental-plaza.com</p>	 <p>株式会社ヨシダ</p> <p>株式会社ヨシダ 〒110-8507 東京都台東区上野7-6-9 Tel: 03-3845-2971 http://www.yoshida-dental.co.jp</p>

DirectDia Paste Kit




ダイヤモンド
研磨ペーストキット

- PMTC時のくもった補綴物・修復物のツヤ出しに
- 咬合調整後や充塞後の光沢仕上げ研磨に
- ペーストは爽やかなライムフレーバー

口腔内の各種補綴・修復物を美しく光らせます

一般医薬品
医薬品製造番号 2681X000D4000199

ダイレクトダイヤペーストキット
歯科用研磨器材

世界の歯科医に愛される
株式会社 松風
本社 ● 〒605-0983 京都市東山区福福上高松町11・TEL(075)561-1112(代)

<http://www.shofu.co.jp>



kuraray



各種臨床設備 歯科用セメントキット
クリアフィル エステティック セメント キット



各種審美修復材料に対応する
接着性と機械的強度
5つの色調 / 透明性バリエーションを備えた
レジンセメントシステム

医薬品製造番号: 216ABBZX00095000

※ご使用にあたっては製品の添付文書をお読みください ●「クリアフィル」は株式会社クラレの登録商標です。

<製造販売元> **クラレメディカル株式会社**
〒118-0001 東京都千代田区大手町1-1-1 大手センタービル

<総販売> **クラレメディカル株式会社**
〒114-8614 東京都千代田区大手町1-1-1 大手ビルタワービル
〒750-8611 広島県広島市東区1-1-23 新島ビル
フリーダイヤル 0120-000-5522
<http://www.kuraray.co.jp/katal>

<総代理> **株式会社モリタ**
〒110-0013 東京都台東区上野3-11-1
03-5821-1000 大塚駅前ビル東館303-1011B
<http://www.morita-dental.com>
TEL 03-5821-0131
FAX 03-5821-0255